



発行所  
三重県鳥羽市池上町1の1  
鳥羽商船高等専門学校内  
鳥羽商船同窓会  
電話(05992) 5-3137  
郵便番号 517  
製 作  
海 交 社

ごあいさつ

会長 西島好夫

昨年五月四日に総会を開催しました。本日は今年度の総会を開催するに当りましては、同窓の皆様には御多忙のところ、はるばる多数御参加下さいまして有難うございます。平素は同窓会のためにかと御骨折を頂いておりますが、私共同窓会の事務局を預っております者にとりましては、誠に不束不行届でございます。皆様の御期待に沿えない点が多いことを先ずしてお詫び申し上げます。先月二〇日に校長先生と御一緒に同窓の和田春生参議院議員が会長になられました。全船協の総会に参加させてもらいました。海運界の不況の状況につきましてはすでに皆様方の方が詳しく御存知のとおりであります。私達の代表として国会で御指導願っております和田参議院議員が本日も国会開催中にもかかわらず御参加下さっております。世界的な不況の現状の中での日本の立場につきましても考えますと世界の海運界の大きな流れを考慮

せざるを得ません。ソビエトを例にとりましても、従来は黒海や河川用の船しか持っていなかったんでありましたが、昨年の発表によりますと二一〇〇万トンの商船隊を充実させたといわれます。これらの船が世界の海運界を混乱させているのであります。

ソビエト側では日本のどの港にも入港しますが、日本船はソビエトの極く一部の港しか入港しておらず。両国の総貿易量の五・六パーセントの荷物しか搭載しております。低運賃政策で世界を圧迫しているわけでありまして。近くの韓国においても同じように自国船優先主義を採っております。かつて日本が活躍していたかなりの部分に食い込んでいくわけでありまして。今やソビエトはユニオンジャックに替ったときえいわれております。世界中の人々は日本を目的かたきにしていく状態でありまして。海運政策につきましても大改革を講じなければならぬと思われまます。いまや国民総反省という立場をと

らざるを得ないところでありまして。従ってここ当分の海運界の景気上昇は望めないものがあります。お蔭様で母校の卒業生は、海技免状の取得率も高いので他校に比較しまして就職率もかなりよい状況でございますが、これも学校当局の御努力の賜とうれしく思っております。卒業生の二割程度しか船に乗れない状況では、商船高専の存在価値が、問われることも考えられます。私共は日本の海運界が存在する以上は母校のより一層の発展を推進しなければなりません。本日はこの総会の後、母校の創基百周年につきましても御相談を致したいと考えております。皆様方の御審議を願うことになりまます。何かと平素の私共の同窓会運営につきまして、御助言を賜われば光栄に存じます。

(従来は会長の巻頭言を、お願いしておりましたが、ページ数の関係で総会における会長の挨拶を以て替えさせて頂きます)

# 本部だより

## 昭和53年度総会

### 学校長挨拶

同窓会総会にお招き下さいまして有難うございます。皆様方この学校の周りを御覧になってわかると思われませんが施設の整備は殆んど終りましてあと環境整備にとりかかっております。学校前を通っております国道が事故が多発しております関係で国鉄沿いに付け替えられることになっておりますので正門付近の模様替えも創立百周年までには完成するものと考えられます。海運界の不況につきましては、先程西島会長からもお話がありました。私はこの機会を通じて、人間形成に全力をあげております。在学中に海技免状を採ることは非常に困難なことでありますが、これも同窓生の派遣教官の御努力に依るところが大きいのであります。私は鳥羽商船が再び世界に轟き渡る日が来ることを期待しております。本日創基百周年の記念事業委員会の発会式が

行われることになっておりますがこれも学校側と同窓会が一体となってこそ始めてその目的に沿った運動が展開されるものであります。学校側は全力をあげて取組む覚悟であります。どうか同窓の皆様のご絶大な御理解と御協力をお願い申し上げます。

### 総会次第

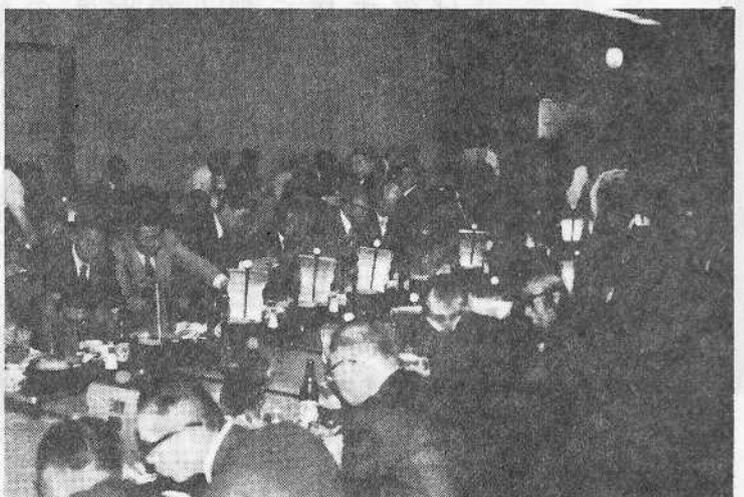
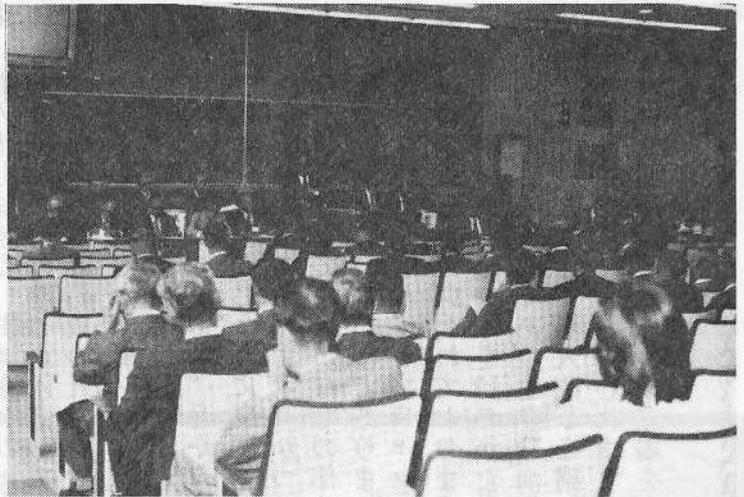
- 一、開会の辞
- 二、会長挨拶
- 三、学校長挨拶
- 四、議事
  - イ、昭和五十二年度会務報告
  - ロ、昭和五十二年度会計報告
  - ハ、会計監査報告
- 五、支部報告
- 六、閉会の辞

### 会務報告

#### 落合理事

昭和五十二年度の会務報告を申し上げます。六月四日に高専昇格一〇周年を記念しまして、同窓ならびに職員の慰霊祭を兼ねまして新しい物故者合祀祭を行いました。同時に役員の変更、定員の増加を行いました。

主な事業としましては同窓会会報を発行しました。二二五〇通を発送しました。現在わかっております正会員は二六一五名で、特別会員が七名であります。



二二五〇名の住所が判明しております。すでに同窓会報でお知らせしましたが近藤真琴先生のお孫さんである近藤忠夫元北大教授をお迎えして学生に対して講演して頂きました。一生懸命やったつもりであります。不備もございましたが、詫言ひ申し上げます。

最近船員の陸上関係への出向等が多くなりまして、従来の三倍程度の移動がありまして追跡調査に困っております。どうか移動のありました際は必ず御連絡下さいませ。ようお願いします。なお、本日の出席予定者は九四名、また

委任状は九一八名参っておりますので総会は規約通り成立いたしました。申しおくれましたが創基百周年に関する準備のために同窓の皆様方に基金の御送付をお願いいたしましたところ多数の方が御協力下さいまして有難うございました。この金額につきましては百周年記念事業委員会の方へ引継ぎました。(一同拍手)



昭和52年度一般会計決算 (昭和52年4月1日より昭和53年3月31日まで)

摘要	収入	支出	残高
繰越金	1,783,367		
入会金(新卒101名)	101,000		
会費(新卒101名、一般702名)	2,758,500		
名簿売上代金	732,500		
ネクタイピン売上代金	7,000		
預金利子	17,068		
慰霊祭御供他	43,000		
創基100周年記念事業寄付金	1,113,100		
同窓会会報印刷・発送費		591,000	
通信費		50,200	
寄付金		293,000	
卒業パーティー 学生運動選手補助 近藤先生接待費		70,000	
支部总会通信費補助		173,000	
役員旅費		45,000	
謝金		11,000	
慶弔費		6,840	
事務用品		480,000	
事務手当		328,495	
総会・懇親会費用		69,398	
慰霊祭費用		217,740	
創基100周年関係会議費		37,305	
振替料		60,680	
負担金(海技ゼミナー等)		1,100,000	
名簿製作代金		12,963	
雑費			
計	6,555,535	3,546,841	3,008,694

基金の部決算 (昭和53年3月31日)

摘要	収入	支出	残高
繰越金			2,680,197
預金利子	102,823		
計	102,823		2,783,020

財産目録 (昭和53年3月31日)

項目	金高	左の内訳	金高
一般会計	3,008,694	郵便振替	233,343
基金	2,783,020	貸付信託(安田信託)	1,580,000
		金銭信託( " )	670,596
		定期預金(第3相互)	532,424
		普通預金( " )	2,149,255
		現品(ネクタイピン)	90,000
		現品(名簿)	400,000
		現金	136,096
計	5,791,714	計	5,791,714

事業計画

落合理事

後で創基百周年に関する事業委員会の設立総会が開催されますので、この点については除かせても構いません。例年通り同窓会報を発行したいと思っております。各支部、各クラス等のニュースがございましたら早目に御送付下さいませ。なお、御連絡もよろしくお願ひします。

業式には、式( )校、後援会と共催しまして新卒業生に対する祝賀パーティーをブラジル丸の食堂で開催する予定にしております。海技セミナーも強加して実施したいと考えております。先輩の皆様にも御協力をお願いすることもあろうかと存じます。今後各支部の総会には会長に御出席して頂くようにいたしますのでよろしくお願ひ申し上げます。(一同拍手)

総会出席者

- 【航海科】
- 江崎 広治 竹内作夫 山崎嘉市
  - 加藤重三郎 周藤計兄 塚田倉一
  - 吉村 武男 鎌田藤吉 松本文吾
  - 岡崎 武義 碓口輝治 関口展生
  - 深津 薫 金子為人 小島明正
  - 植松 春一 浦田楠雄 浜崎健三
  - 水谷 学 竹内清磨 内藤平七
  - 和田 春生 梅山三郎 押尾定夫
  - 荒川 典弥 山崎 修 渥美 豊
  - 末崎 弘 西川慶堂 小原 博
  - 落合 好明 中西 勸 浅野和昭
  - 前野佳三郎 山本太郎 西川義徳
  - 落合 弘明 竹内茂七 待井信一
  - 竹内 宗助 松本暢生 田澤 進
  - 青木 努 辻 裕 野尻 進
- 【機関科】
- 加藤 久男 小島広志 中村武史
  - 水谷忠二郎 石川富朗 大川 環
  - 浜中 晴秋 松本信行 岡室孝美
  - 鷺見 照夫 浜田 徹
  - 谷口英雄 山林規矩蔵 西島好夫
  - 嶽尾幹敬 藤本朗之助 堤 好造
  - 泉 清八 井村 茂 大川勘一
  - 世古五良 平井 勇 山口清吾
  - 倉橋善正 加藤 清 小坂 仁
  - 駒田秀男 田崎 三郎 今高光雄
  - 御子昌也 竹岡 四郎 吉田秀雄
  - 山本徳男 井村 安雄 磯辺三郎
  - 和南義臣 田岡 一豊 三宅文郎
  - 菅 恵治 齊藤 隆 水谷智洋
  - 田中節男 小木曾順務 大野平和
  - 加塚伸吾 石原 久治

「海事功労者の表彰」

第三十八回「海の記念日」における海事関係功労者(運輸大臣表彰)の表彰式は、去る七月二十日午前十一時半から東京、芝の東京プリンスホテルのマグノリアホールで行われ、多数の海事関係者の中から、左記の同窓生の方々が表彰されました。

(船員永年勤続)  
山下三樹夫(ジャパソライン 機関長・S16E卒)  
南 秋雄(川崎汽船機関長・S17E卒)

なお、このほかにも表彰された方があるかもしれませんが、御存知の方は本部まで是非お知らせ下さい。

創基百周年記念事業後援会設立  
 總會に当りまして、発起人代表と  
 しまして、本日の議長を努めるよ  
 う御指名を受けましたのでよろし  
 くお願い申し上げます。併せていま  
 までの経過を報告させて頂きます  
 昨年の総会以来、事務局で案を立  
 てまして、各支部長さんには百周  
 年記念事業実行委員会という名の  
 もとに度々御参集願ったわけであ  
 りますが、本日を以って母校側と  
 同窓会が一体となりまして、鳥羽  
 商船高等専門学校創基百周年記念  
 事業後援会なるものに発展したわ  
 けであります。なお会長には和田  
 春生参議院議員にお願い申し上げ御  
 引受願ったことを報告させて頂き  
 ます。お手許に配布しました趣意  
 書ならびに会則につきまして御審  
 議を願うことになりました。母校  
 は明治初年、我国が海運立国を計

画しました当初から近藤先生が国  
 策に沿って設立されたものであり  
 まして、我国が明治、大正、昭和  
 と極く短期間に英・米に比較され  
 る大海運国に成長した大きな原動  
 力となったのであります。  
 その間、二度に亘る廃校問題など  
 風雪厳しかった歴史がございます  
 が、その都度先輩諸兄の御努力に  
 よりましてよく持ちこたえ今日の  
 堂々たる商船高等専門学校に成長  
 いたしましたことはいまさら上げる  
 までもありません。私は数年前あ  
 る新聞にこう書いたことがありま  
 す。「母校の正門入って左側にあ  
 る創立者近藤先生の記念碑の碑文  
 は勝海舟の手によるもので、母校

### 西島議長挨拶

の歴史の深さを物語るにふさわし  
 いものの一つである」  
 現在までに卒業された同窓生は  
 三千名を超えております。このう  
 ち千名近い方が亡くなられまして  
 現在皆様御承知のように近藤先生  
 の記念碑の左隣にあります慰霊碑  
 に合祀されました、母校の発展を  
 見守って頂いております。この母  
 校の歴史の中であと三年で百周年  
 を迎えるわけです。昨年以  
 来一年間に亘りまして格別のお世  
 話になったわけでありますが、本  
 日ここにいよいよ本格的な記念事  
 業に対するスタートをすることに  
 なったわけです。配布され  
 ました書類の御審議をお願い申し  
 上げまして、私の挨拶とします。な  
 お書類の作成につきましては岡田  
 事務部長のお骨折を賜りました。

## 創基百周年記念事業後援会

### 和田後援会長挨拶

只今母校の創基百周年記念事業  
 後援会の会長に、就任するよう要  
 請が、ございました。私にとりま  
 しては、この上もない光栄である  
 と同時にその責任の重さを痛感す  
 る次第であります。東京にいまし  
 て政治の舞台におることでもあり  
 ますので、会長というのは大変重  
 荷でございますが御引受する次第  
 であります。この仕事につきまし

ては仲々大変でございます。目標  
 二億円としますとこれは相当な努  
 力が必要であります。同窓生がお  
 世話になっております船会社等に  
 も御協力をお願いすると致しまし  
 ても容易ならぬことと考えられま  
 す。しかしやろうと思えば皆様方  
 の御協力に依るところが大きいこ  
 とになるわけでありませんが不可  
 なことではないように思われます  
 私が会長をいたしております全  
 船協の場合を考えましても破算寸  
 前まで致つてした財政状態が

役員一同の努力によりまして大幅  
 に改善されまして、四百万円の余  
 剰基金が生じたのであります。同  
 窓会の場合には若い人を含めて本  
 日御参集になつていらっしゃる熱心な  
 方々が多いわけでありまして、私  
 もう一押しすれば、本日御参集願  
 えなかつた方々の御協力も必ず得  
 られるものと期待できるわけであ  
 ります。先輩の皆様、また後輩の  
 皆様の格別の御協力を仰ぐことに  
 よりまして、是非共この大事業を  
 達成すべく努力する覚悟ござい

### 鳥羽商船高等専門学校 創基百周年記念事業 後援会発会式 次第

- 一、開会の辞
- 二、議長選出
- 三、議事
- イ、経過報告
- イ、趣意書、事業計画説明
- ロ、会則について
- ハ、役員について
- ニ、その他
- 四、後援会長挨拶
- 五、学校長挨拶
- 六、閉会の辞



ます。百周年というのは母校にと  
 つて一つの大きな節でございますし  
 て、どうしてもやりとげなければ  
 ならないわけです。皆様方  
 の御協力を切にお願い申し上げま  
 す。私、挨拶といたします。



### 母校の 創基百周年に寄せて

浦田 理事

本日創基百周年記念事業後援会  
 の発足に当って一言申し上げたいと  
 存じます。大先輩を前に申訳け  
 ざいせんがよろしくお願い申し  
 げます。実は昨晩昭和九年卒業生  
 十七名が鳥羽のパークホテルで夜  
 を徹して語り合いました。今後三  
 十年母校の百周年を迎えるまで連  
 続してクラス会をやるうと決めま  
 した。ここに何名かのクラスメー  
 トが出席しておりますが、クラス  
 会はあと三年鳥羽でやることを提  
 案致したいと思っております。従来  
 の物見遊山と違って、母校のためクラ  
 スを、結果しようと思ひます。  
 私共学生中に五十周年を迎えまし  
 た。しかし、そのクラスメートの  
 半数以上を太平洋戦争で失いまし  
 た。残りしました私共が今は亡きク  
 ラスメートに対して、何かをや  
 り切ったという証拠として百周年  
 に全面的に取組もうと考える次第  
 であります。クラスメートの諸君  
 御異義ありませんか。(一同拍手)  
 有難うございました。私共のクラ  
 スメートは毎年同窓会総会の前日  
 に鳥羽で開催することを決定しま  
 す。

私は数年前神戸の支部の総会で母校は世界一の学校であると訴えました。校祖の姿勢であります。東京の越中島の商船学校が当時の大蔵卿の大久保利道が、三菱の岩崎彌太郎にせつきまして手厚い保護のもと半官半民の形で設立したのに対し、母校は近藤先生の私財で設立されたことが違います。すなわち私学から出発したのであります。私共は、二百周年はだれも生きておりません。立派な校祖に対し私は、全く不肖の卒業生である余生を是非母校のために、校祖の真似をいたしたいと考えております。

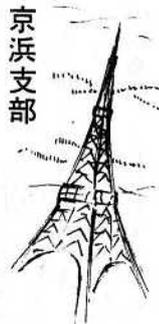
近藤真琴先生の序文に、望月啓介さん(攻玉舎出身)がこう書いておられます。「当時の攻玉舎は慶応義塾におとらない立派な教育機関であった。近藤先生の目的とされた学問が福沢さんにくらべて、地味であったから目立たなかったのに過ぎない」また、西郷隆盛が日本の将来は、立派な海軍を作る必要があると思うが、そのためには、だれが一ばん適切な人物かと勝海舟に尋ねたところ、即座に近藤真琴先生をあげている。西郷隆盛が、身許保証人となって入塾した一人に有名な日露戦争の第二艦隊司令長官上村彦之の名があります。私はその名簿を攻玉舎で拝見しまして感銘を受けました。近藤先生は非常に謙虚な方でありまして、近藤先生が、コレラでお亡くなりになったとき弟子達が記念碑を立てるに当り、こんなことをしたら先生が、本当に喜ばれないんじゃないかと云ったときさえないわけていますが、先生の人柄がしのばれて、これは全くすばらしいこととあります。

さて、本日を以て谷川校長以下母校の教職員が創立百周年というとりでに籠城する。それに対して私共同窓生が、本当に清らかな気持ちになって近藤精神にのっとりて兵糧、弾薬を、すなわち軍資金を調達するということこそが同窓の戦だと考えます。

現実の問題としますと、東京商船大学の場合に募金された方が、二千名あまりで率にして三分の一の会員に過ぎません。また大島商船の八十周年の場合も、同窓会員は、本校とあまり変わりませんが、募金された方は九二三名となっております。従って母校の場合同窓生二千名×五万円では誠にむずかしいではなからうかと存じます。まず半分の募金と考えて出発しなければなりません。どうか籠城者を見殺しにしないという立場におかれまして御支援を、お願いいたします。



XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
**支部報告**  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX



京浜支部

江崎支部長

全会員無事であったことを申し上げます。現在会員数は約五百名で、海軍関係者が半分となっております。四年前に京浜支部の会員名簿を発行しましたが、今年中にまた新しいものを発行したいと思っております。支部総会のアンケートに基づき、東京の中央部でパーティー形式で行うような決定となりましたので、昨年の十二月十八日に東京ステーションホテルでパーティー形式で実施しました。参加者は七五名、本部から落合理事、金田先生に参加してもらいました。

次に五月二〇日に全船協の総会が日本工業クラブで開催され、二〇〇名の参加者がありました。

母校から校長先生、本部からは西島会長が参加して頂きました。会員一五名が出席しました。六月九日、京浜地区の和田参議院議員の後援会の総会がありました。同窓生も多数参加しました。京浜地区では過去一年間に三回理事会を開催しまして母校の創基百周年について討議いたしました。そして本部に連絡しております。

**四日市支部**

佐波支部長

四日市といたしましては、特別の話題はございませんが、母校百周年に對しましては、積極的に取り組むことに決定しておりますので今後共よろしくお願い申し上げます

**名古屋支部**

関口支部長

学校も近いせいか会員も多数お見えになります。支部総会は例年三、四〇名の参加者を得ている状態です。現在の主な活動は母校の百周年問題に関するものばかりでございます。最近海運界の不況で、乗船できないため若い卒業生の方が多数名古屋地区に就職される傾向があります。

最近衣浦港のバイロットに母校出身者が多数就任されております。誠にうれしく思っております。

**大阪支部**

吉村支部長

六月二日に支部総会を開催しまして二二名参加されました。例年以下という状態でこれも不況の影響があらうかと思えます。大阪港の近くで開催しているせいがあろうかとも考えております。支部の幹事会を増強しまして本部との対応に努めております。幹事会は卒業年度別に構成しております。また今年度から副会長制度を設けま

して、中西勸さんをお願いしております。一月以来幹事会を五度開催しております。百周年関係の議事を討議しております。

うれしいニュースとして小原博会員が近畿海運局の船員部長に昇任されました。今後の御活躍を期待しております。最後に全会員に対して創基百周年記念事業の趣意書を一日も早く発送して頂くよう希望して止みません。

**神戸支部**

押尾支部長

神戸支部と致しましても特に話題はございませんが、支部総会を通じまして母校の百周年に対する協力を強力に推進するよう努力しております。なお支部の総会には西島会長が出席して頂きました。

**伊勢・志摩支部**

西川支部長

本部と一体となっております関係上特に申上げることがございませんが、今後支部の会員と共に強力な協力体制を確立すべく努力する考えであります。



# 学校だより

## ◎第七回高専卒業式

昭和五十三年度の卒業式は九月三十日に挙行され、N科二十四名、E科四十二名の卒業生が母校を巣立ち、晴れて社会人となりました。構造不況といわれる海運状況のため、今年の海上就職は増々厳しいものとなり、昨年のN科九名、E科十三名を下回るのではないかとと思われる求人状況であり、卒業生は勿論のこと関係者一同深刻な思いで受けとめています。陸上関係は航機共に約二倍の求人数があるのが何よりの朗報といえます。

二百二十名の入学定員を昨年並にN科二十九名、E科五十七名、合計八十六名に絞り、それに対する受験者数四百五十五名で実質一・七倍と昨年をも下回る競争率となりました。五商船高専の入学願書受付数は本校百四十八名、富山九十七名、広島百二十八名、大島百六十四名、弓削百二十七名と一様に低調で、海運政策の一大転換が望まれる現状です。

## ◎オリエンテーション

恒例の新入生のオリエンテーションが四月十九日から四月二十一日までの三日間、熊野青少年自然の家で行われました。中部電力尾鷲火力発電所見学を含め、将来、船舶共同体の一員として必要とされる人格形成についての講演とミーティングが行われ本格的な全寮生活の第一歩をあゆみ始めました。

## ◎海外からの視察

相応しい楽しいものとなりました。

## ◎入学試験

本年度入学試験は二月十九日に本校、東京、名古屋、大阪の四ヶ所で行われ、三月十日に本校に於て入学第二次検査として本年度より新方式の面接試験が行われました。

航機あわせて

続いて十月六日、同じくアラブ海運大学の機関学科主任AHMAD HASSAN MAMMOUN氏と教育、担当官のMOS

TAFAMOHAMED ABD EL AZIZ氏の御二人が国際協力事業団研修第三課監理員の福島守一氏を同行して校内練習船鳥羽丸をはじめとする学校の教育施設を熱心に見学していかれました。一行は九月二十四日に来日し、当事業団の研修計画に従い研修中、その一環として来校されたものであるが、その目的は当事業団がアラブに練習船を寄付することが決定しているため、本校練習船をモデルとするためにあるようです。

## ◎文化講演会

春季講演会は六月十二日、参議院議員、和田春生氏に「これから日本海運」について講演をしていただきました。

創基百周年記念事業後援会発会式に会長就任のため来校されたその機会をお願いしたわけですが、全学生参加の下、御自身の在学時代からのご経験をはじめ、日本海運の現状と今後の進路について、学生にとり、きわめて関心高い事柄を一時半にわたりお話いただき、一同深く感銘を受けました。

## ◎体育大会

第十六回東海地区国立高専体育大会は七月十五日、十六日の両日各クラブ別に沼津、豊田、岐阜工業高専、本校の各地で開催され、団体戦ではハンドボール、柔道、水泳部が第二位、剣道部が第三位となり、個人戦に於ては柔道部から三名、陸上部から一名、全国高専体育大会の出場権を得ました。

ラグビーは冬期に行われるため結果は出ていないが、昨年同様優勝することが望まれます。

第十三回全国高専体育大会は八月二十三日、二十四日に岐阜にて行われ、先の東海地区代表が出場しましたが、ハンドボールが第三位、柔道軽量級でN五、田中晴敏が第三位、陸上100、二百米でN四浅野清が五位、四位、の結果となりました。

・全国商船高専操艇大会は昨年十月三十日、大島商船高専で行われ本校は第二位となりました。今まで四、五位を低迷していただけに喜びはひとしおで今年の活躍が期待されます。

・長野国体にヨット少年の部でN三、藤田健治、中西克次組が出場しましたが惜しくも第五位にとどまりました。昭和五十年の三重国体で優勝という実績があるだけに誠に残念です。

## ◎技術科学大学に推薦入学制度設置

商船高専機関学科卒業生に対し豊橋、長岡技術科学大学のいずれか一校に成績優秀者一名が推薦入学出来る制度が設置されました。校長の推薦状と一次、二次の面接試験に合格すれば入学出来るわけですが定員の関係上、五商船、他の工業高専との競合が厳しく今年是不合格となりました。今後の卒業生の発展が望まれるところです。なお、航海学科卒業生に対しては技術科学大学に該当する学部がなくこの制度は採択されませんでした。

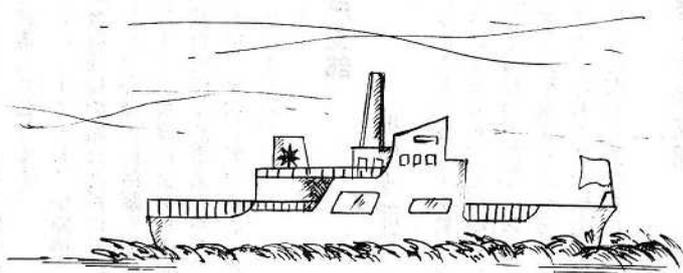
た。

## ◎攻玉舎中学校学生の近藤真琴碑参拝

枝祖近藤翁の命日にあたる十月三日、攻玉舎中学校の先生四名と三年生学生百三十二名が伊勢志摩地方への修学旅行の途次本校され近藤翁慰霊碑に参拝していかれました。

学校長が攻玉舎と本校との関係本校の紹介等約十分間の説明を学生に致しましたが、その中の何名かが来年本校に入学することを望むところでした。

(中村記)



杉山教授御逝去

去る昭和二十二年十一月から母校教官として御指導願いました、杉山義人教授が七月十六日にガンのため逝去されました。学生主事として学生指導、機関学科主任として就職指導に御尽力下さった関係上、卒業生にも航機を問わず親密感をもたれていた教官を失ったことは非常に残念でなりません。御遺族は（先生の希望通り母校近く）従来通り鳥羽市池上町八一三八にお住いです。

杉山教官を偲ぶ

千々波 天信 S.27 E

杉山教官、戦後間もない日本の誰もが食糧不足に喘いでいた頃でした。

その頃の教官はエネルギーの此れ塊りで教育熱心の上独身で、寮内をまさに神出鬼没。私共寮生は24時間監視されている様な錯覚に襲れ、戦々競々と暮しており中には禁止されている煙草を口にしたまま、突然目の前に現れられた教官を呆然と成すすべもなく眺めている光景を良く見受けました。そんな時、早速私共悪童連中は夜討け、朝駆けまがいに、教官の御自宅に御伺いし、殊勝に頭を垂れ、御寛大な処置をと御願いしたものです。御聞き届け頂いたと思うと

ずうずうしくを御馳走になり空き腹を満たして年がら年中風が自由に通り抜ける寮に帰ったのも懐しく思い出されます。御結婚なされても、私共の期待を裏切り、生活態度を崩されず、相変らずの教育御熱心でまさに教官は学生と心身共に渾然一体となり、毎日を通されました。あの鳥羽での夢多き楽しい日々が昨日の如く思い出されます。

然し、残念な事にガンセンターの立入禁止の放射線室の病床から老眼鏡をかけられ、覗き込むように見られる御姿を、看護看護用テレビで拝見し乍ら、短い会話を交わしたのが、幽明境を異にする最期の御姿でした。此の時云われた

「此の病氣は徐々にしか治らんからな」嘆息交じりに云われた言葉の裏には、同席された御令室へ最上のいたわりであったと思えます御本人は、自治医大付属病院を退院されてから、暫くあって、御自分が不治の癌にとりつかれていてのをカルテの上で知られたにもかかわらず「家内には心配かけたくないの云って呉れるな」と云はれたとか。本当にいたわりの心を知っておられる教官でした。愛情のない教育は稔りがない事を御存知で身を以って実践された方でした。「人を騙すより、騙される方が良い」と、昨年の傷心の私を慰めて頂いた今はなき教官に何も申し上げられず、又その御言葉に御応えする事が出来なかったのは残念です。然し感動の中に受けました教育を基に私共は必ず花を咲か

せて見せます。御令室におかれましても益々御自愛の程、私共一同御祈り申し上げます。

合掌

作家谷 恒生氏の

秋季講演会

(S.39年N)

本年度海学祭は十一月二日、三日の両日にわたって開催されましたが、特別企画として秋季講演会を兼ねて、母校出身の作家、谷恒生氏に「北の怒濤」と題する講演をしていただきました。

かねてより工事を進めていた、海事センタービル（日本海事財団所有）が、昭和五十三年七月完成し、船員関係の諸団体が入居している。

場所は「東京都千代田区麹町四の五」で文芸春秋ビルの近くにあり、海運ビルや国会などにも非常に近い便利なところである。このビルに船員関係の諸団体が全部入居した意義は非常に大きいものがある。

谷恒生氏の作家活動については同窓生の多くの方々が知るところであります。昭和五十二年四月に「喜望峰」「マラッカ海峡」の処女作を発売以来、「ホーン岬」「北の怒濤」「悪霊を撃て」と次々と作品を発表、その処女作が直木賞候補になるなど今後を期待される大型新人作家であります。今回の講演は自己の船乗り生活を土台に創作された「北の怒濤」の内容を断片的にお話していただきましたが、学生は自分達の先輩作家に直接に接する事が出来て大喜びで熱心に講演に耳を傾けていました。

ある。

交通の関係  
地下鉄有楽町駅より徒歩一分。  
地下鉄銀座線、丸の内線赤坂見附駅より徒歩十五分。中央線四ツ谷駅より徒歩七分。  
入居している船員団体

日本パイロット協会、日本海技協会、日本船長協会、航海士会、機関士協会、海洋会、全日本船船職員協会、  
そのほか、海上労働科学研究所、日本船舶職員養成協会、日本気象協会なども入居している。

海事センタービル 完成



【派遣教官の交代】

- ◆新任 大川 環 (47年N卒・高専1期…山下新日本汽船より) 田中節男 (41年E卒…日本郵船より)
- ◆退任 金田 譲 (42年N卒…山下新日本汽船へ復帰) 出口正之 (39年E卒…日本郵船へ復帰)

昭和九年卒クラス会

級友故佐々木英一君は、二十三年前、級友一同の消息動静を集録した冊子「星霜二十年」を刊行し四十才の若さで世を去った。「星霜二十年」の冒頭には次の彼の詩が掲載されている。

(戦病死者の霊に捧ぐ)

嗚呼友よ

友よ

嗚呼、この欄の友よ

二十年振りで皆さんが

此処に集った

だまっていけないで

ちよっとでいいから

何とか言っておくれ

何も言はないと

私は悲しい

私は泣けそう

友よ

嗚呼、この欄の友よ

君達の名の下には

何んにも書いてない

ゆるしておくれ

書けないのだ

書くことがないのだ

それだから

私は悲しい

私は泣けてくる

友よ

嗚呼、この欄の友よ

おかげで戦争は終わった

そして早くも

一昔が過ぎ去った

時折りは此処に来て

仲間入りをしておくれ

あの頃の様に

皆さんが待ってる

皆さんが祈っている

この佐々木君が残してくれたクラスの紐帯が、星霜四十四年目の卒業以来始めての再会となつて実を結んだ。

六月十日午後二時頃より近鉄鳥羽駅待合所付近に三々五々集う。

標識は吉原君の奥様の筆なる「歓迎・昭和九年鳥羽商船卒業生」の横断幕、掲げるは往年の練習船日本丸名甲板当番浜崎君、おうおう、やあやあ、互に肩を叩き合い手を握る。まさに感動の一瞬、地元

の加藤君のお骨折りで準備万端オーケー、午後五時迎えのバスでパークホテルへ、玄関前で記念撮影

旅装を解き、入浴小憩の後、別館宴会場に浴衣姿のわれら昭和九年鳥羽商船卒業生十七名、夫人四名勢揃いす。

懇談会次第は、歓迎のことば、亡き恩師・級友への黙禱・乾杯・出席者の近況報告、夫人紹介、欠席者近況報告、母校創基百年へ真心を、来年もまた会おう、校歌、寮歌、万歳三唱と型の如く以後懇談、「同期の桜」が歌われ「男なら・・・」が出て、一同ほどよく酔う。四十四年前の青春が体内に蘇る。

閉会后、座、各部屋に移し歓談

尽きず深更に及ぶ。翌朝天下の絶景を背景に記念撮影、横尾君、浜崎君、スナップ写真撮影に昨夜より大活躍、朝食後解散来年の再会を期し惜別す。その後母校訪問者十三名、各所において記念撮影、同窓会総会、記念事業後援会発会式、懇親会に、若干名出席した。

第一回クラス会開催直前の五月三日、好漢上野篤夫君を失った。そして、七月十五日、クラス会開催の推進力であった浜崎健三君が突然逝去した。彼はクラス会終了後、母校正門前、近藤先生碑前、慰霊碑前等での記念写真に署名して手紙をつけて級友一人一人に送って呉れた。その手紙の末尾の「絶句して・・・」は遂に彼の辞世となった。浜崎君が渾身の力をこめて級友に示そうとしたものを、しっかりと受け止めて共に前進した。

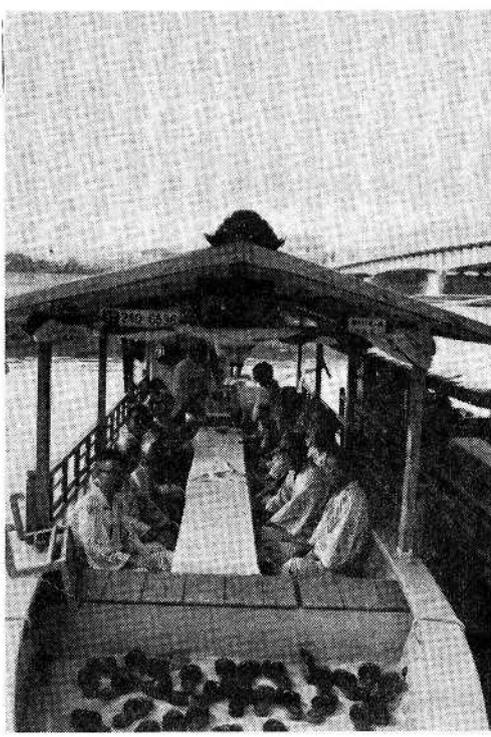
い。

(浦田)

「さむらい会」長良川

鵜飼見物の巻

恒例の「さむらい会」を本年は岐阜の長良川鵜飼見物を兼ねて行うことになり地元の小生が幹事の役を引受けることになった。今回は一級下(昭和十二年卒)のクラス会も合同することとなり、出席の確認、旅館、鵜飼観覧船の予約等々に二ヶ月間の準備を要し愈々待望の開催日昭和五十三年七月十八日を迎えることとなった。心配した天候も曇一つない上天気真夏を思わせる暑い盛りの午后三時



鵜飼見物の巻

の具合が悪いようで心配していたが今日はすっかり元気で「もう時効になったから真相を話す」と云って皆んなが始めて聞く数々の昔話を被露してくれたが、一寸こゝに書くことの出来ないような話も出て来て大笑いであった。楠木は万年青年、地元の喫茶店組合長とかで何時までも若い、うらやましい限りだ。島岡とは久しぶりに会った。益々太って大きな腹を出して大きな口で笑うと漫画の社長タイプそのまゝだ。しばらく後和田松岡、久保の東京三勇士がやって来た。小生が上京のたびにお世話になる三人ですっかり顔馴染み、やあやあが挨拶がわり相変らず元気な姿に心安まる思いだ。一級下の松山、宇山、時岡の三君がやって来た、卒業以来の顔におつきりすっかり戸惑う、名前を聞いても昔の顔がかすかに残っていると云う感じで特に宇山君のマブシイ頭には皆んなビックリしていた。

予定人員十八名が全員揃って幹事としてやれやれの思いであった。欠席者が多いと旅館や舟のキャンセル料の問題が生じてやゝこしくなってくるし、折角の会合にすき間風が入る不安があったが全員の出席で気分満点、午後六時がやがやと舟に乗り込んだ。川面に夕日を、金華山頂に岐阜城を眺め、美女の酌に盃をかたむける心地は正に一国一城の主になった気分であった。夜の帳りが下る頃名物鵜飼太鼓がやって来た。舟上に太鼓を並べはち巻、はっぴの若者が勇ましく叩く太鼓の音が夜空に響き盃の回転も一段と早くなる。続いて踊りの舟が岐阜ちようちん一パイの明りを灯して美しい踊り子の手踊りを乗せて賑やかにやって来たしばし箸をとめて見とれる、やがて鵜飼の始まりである。川の上流より鵜匠のあやつる縄に、松明の火が輝き鵜と人が一体になってみせる、一千年の伝統を誇る一大絵巻である。三時間、陶酔はあつと云う間に過ぎてしまった。宿に帰ると鈴木健が来ていた。昨年足を痛めて仕事を休んでいたのさぞやつれているかと思つたが、すっかり元気で昔懐かしい丸い顔で笑っていた。時の過るを忘れ、想い出話に花を咲かせ楽しい一夜が過ぎていった。

翌日も上天気、気温はぐんぐん上昇して三五度を越す暑い一日であった。予定通り明治村の見学に出発した。途中、犬山城、成田山に立寄り明治村に到着、正門前で和田と別れた。議会活動多忙な一日をさいてよく来てくれたと全員感謝の握手で送った。暑い暑いと云いながらも広大な敷地に散立する明治の文化を目の前にして我々が何を後世に残すことが出来るかと感無量であった。

明治村から名古屋駅に向うバスの中で会計報告を行い来年の幹事は岡島が神戸方面での開催を決定し、その折に母校創立一〇〇年記念の協賛について相談することをきめ幹事の務めを終りほっと一息つく。今年都合で出席出来なかつた筒井、橋本、病氣静養中の大坪中川、野地、河村、上野、又今年不参加の昭和十二年卒の諸君も来年は元気な姿を見せてくれることを祈りつゝ名古屋駅頭にて別れの時を迎えた。再会を約しそれぞれ思い思いに去って行く友の背中に太平洋戦争で散つた級友の顔が、浮彫されその後姿が人波に消えるまで、しばし立止り見送っていた。(昭和五三年七月二五日神谷記)

### 昭和十六年本科卒

#### クラス会

大東亜戦争前の昭和十六年三月に別れて以来、三十七年の月日が過ぎた。御子、荒川、中西、田中(広)の諸兄が第一線を退き、またN科中退の中村静夫兄(鳥羽市小浜町出身)が去る六月十日、「脳血せん」で、急死されたとの連絡が入り、少し淋しさを感じさせられます。

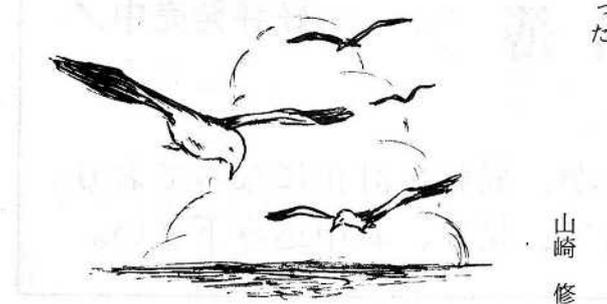
昭和十六年以來、面談してない人もあり懐旧の念が湧き起り、同級会を開催することに決めました。去る五十三年九月二十三日、岐阜市岐阜公園内の萬松館(天皇陛下も宿泊されたことがある)に十六時参集の手配をしました。N科九名、E科十三名計二十二名中(S十二年五〇名入学)出席者は十三名となりました。

当日の一番手は野村、佐藤、山崎の三名、船木、今高、御子、山口、荒川、尾崎、に続いて田中(明)、中西、東の順で、最後は一番近距離の田中(広)・諸兄の参集となる。三十六年ぶりに逢った時の感激、顔と顔と合つた時、道で会つても顔が変わつて判らないと思われれる人が、五、六人はありました。第一回目のクラス会でもあり、十七時よりの自己紹介は、四十年前の思い出話より始まり、実習生の生活とロマンス、戦争中の奮闘話もあれば、戦後の職務歴と苦労話の数々、また各々の家族歴、息子の職業や孫何人等、後は時代の流れに沿つたエピソード等……十八時より宴会に入るがまず……

戦没、病死者二十五名(本屋の伊藤、中退の中村を含む)のご冥福を祈り黙祷を捧げる。じつと眼をとじたら戎井、鳴海、鈴木(弓)及び小木曾、大西、葛井、鈴木(長)等、亡き諸兄の顔が浮かぶクラス全員の健康と活躍を祈つて乾盃する。後は岐阜の美女三名に囲まれて、四十年の歴史を一挙に話そうとする、懇親会に入る。楽しい飲酒、食は続き二十時三十分頃より校歌、寮歌等、思い出の歌は、二十一時を過ぎる。N、E科に分かれて宿泊する。話、話はずみ夜明け頃まで……。途中一部の有志は有名な柳瀬のキャバレーにエスケープする。

翌朝、記念撮影して解散した。最後に今度の第一回目のクラス懇親会の開催を記念して同級生の物故者二十三名も合祀されている母校の慰霊碑の供物及び後輩生徒諸君の参考図書費として一金五万円を、母校に寄贈いたしました。(S十六年クラス会有志一同)

◇出席者は、文中の十三名であった



山崎 修



### 昭和十九年卒同級会

第三回のクラス会を昭和五十三年六月十日(土)夜、鳥羽市安楽島の鳥羽船員保険寮において開催した。第一回は昭和四十九年六月志摩の浜島で、第二回は昭和五十一年六月月浜名湖畔の館山寺で開催、今回は三回目である。今年是不況で「開催の可否」のアンケートをとったところ約十五名の出席希望があり、同窓会総会の前日を利用したが、都合の悪い人などでもでき最終的には九名という小人数のクラス会となってしまった。

しかし、同日は二級上の昭和十七年卒のクラス会(十名出席)も同じ保険寮で行なわれ、最初の約一時間は大広間を二つに仕切って別々にやっていたが、お互いに皆顔見知りの間柄なので、戸をはずし合同のクラス会に早変わりし、結構楽しい宴会が夜の十時頃まで続いた。

なお、前回浜松でのクラス会の模様を三石君がハミリに撮ってあったのを持参、当日二回上映されたのが非常に好評であった。今回は出席者が少なかったが、二級上の人たちと合同のような会であった。翌日は半数が同窓会総会に出席した。次回は季節は秋にして新幹線沿線の交通の便のよいところにしよとういうことをきめた。

#### ◇出席者

山本太郎、荒木修造、裏山惣一、西川義徳、浅野和昭、宮崎道英、三石昭夫、井村安雄、磯辺三郎、

#### (注)

鳥羽船員保険寮は大広間が増築され「学校のクラス会には是非利用して下さい。二五名位は大丈夫」との寮長からの伝言です。

#### 所在地

〒三三七一〇  
鳥羽市安楽島観谷三〇〇の三  
電話(〇九七〇)五一一三九八七

只今発売中!

テープライブラリー

## 「海・わが青春の歌」

あの頃にもどりたい…… あの頃が懐かしい……  
そんな時、ふと口ずさむ うたのかずかず——  
友と語りあい共に語る。そして夜更けには一人、グラスを  
傾けながら静かにそのメロディーを聞く……

是非一度このテープライブラリー「海・わが青春のうた」  
をお聞き下さい。伴奏用としても使えます。鳥羽商船寮歌、  
校歌をはじめ白菊の歌、海王丸船歌など、全16曲はいつて  
頒価 2,500.円。お求めは同窓会神戸支部まで。



### おわび

◆母校「百周年記念」関係の  
詳細(連絡、報告)につ  
きましては別項のよう  
に後援会が発足された  
ので今後、同会よりそ  
の都度ご発送申し上げます。  
◆会誌の発送が遅れました  
がご承知の如く、昨年末  
の郵便事情により印刷完  
了後もしばらく控えてお  
りました。ご諒承下さい。

## < 同窓会会員名簿 >

好評発売中!

新しい同窓会会員名簿を、発売中です。  
前回(49年度版)から約3分の1以上が、異動・訂正になっており  
ます。1冊、1,500円。同窓会本部あて、是非、お申込み下さい。